

専門医制度 内科領域

多治見市民病院内科専門医研修プログラム



社会医療法人 厚生会
多治見市民病院

多治見市民病院の概要

- ・設立者：多治見市長、運営者：社会医療法人 厚生会（指定管理）
- ・病院長：今井 裕一
- ・病床数：250床（急性期 200床 回復期リハビリ 50床）
- ・内科医師数：10名
　　総合内科3名、消化器内科4名、循環器内科3名、
　　腎臓・リウマチ膠原病内科4名
　　内分泌・糖尿病内科1名、脳神経内科1名
- ・内科指導医：10名、うち総合内科専門医：4名
- ・内科専攻医：6名（現在）
- ・初期臨床研修医：9名

Subspeciality学会 教育研修施設

- ・日本消化器病学会 消化器専門医指導連携施設
- ・日本消化器内視鏡学会認定 指導連携施設
- ・日本循環器学会 循環器専門医研修関連施設
- ・日本不整脈心電学会 不整脈専門医研修関連施設
- ・日本腎臓学会認定 腎臓専門医研修施設
- ・日本リウマチ学会認定 リウマチ専門医教育施設
- ・日本内分泌学会認定 内分泌代謝科専門医教育施設
- ・日本甲状腺学会認定 甲状腺専門医教育施設
- ・日本がん治療認定医機構 認定研修施設

基幹施設	連携施設	特別連携施設
多治見市民病院	中部国際医療センター 愛知医科大学病院 岐阜大学病院 岐阜市民病院 東濃厚生病院 名古屋徳洲会病院	市立恵那病院
愛知医科大学病院	多治見市民病院 ほか	
岐阜大学病院	多治見市民病院 ほか	
中部国際医療センター	多治見市民病院 ほか	
岐阜市民病院	多治見市民病院 ほか	
名古屋徳洲会病院	多治見市民病院 ほか	

多治見市民病院内科専門医研修プログラム

(概念図)



内科専門研修 修了要件(「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」)一覧表

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ(一般)	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ(高齢者)		1	
	総合内科Ⅲ(腫瘍)		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上		2
剖検症例		1以上		1
合計		120以上 (外来は最大12)	56 疾患群 (任意選択含む)	29 (外来は最大7)

補足

1. 目標設定と修了要件

以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必ずではなく、修了要件を満たせば問題ない。各プログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組んでいただきたい。

	症例	疾患群	病歴要約
目標(研修終了時)	200	70	29
修了要件	120	56	29
専攻医2年修了時 目安	80	45	20
専攻医1年修了時 目安	40	20	10

2. 疾患群：修了要件に示した領域の合計数は41疾患群であるが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。

3. 病歴要約：病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。

4. 各領域について

① 総合内科：病歴要約は「総合内科Ⅰ(一般)」、「総合内科Ⅱ(高齢者)」、「総合内科(腫瘍)」の異なる領域から1例ずつ計2例提出する。

② 消化器：疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・脾」が含まれること。

③ 内分泌と代謝：それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例)「内分泌」2例+「代謝」1例、「内分泌」1例+「代謝」2例

5. 臨床研修時の症例について：例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大60症例を上限とし、病歴要約への適用については最大14症例を上限とする。



Online system for Standardized Log of Evaluation and Registration of specialty training System

日本内科学会HPより

- ①経験症例の登録
 - ②施設指導医のチェック
 - ③症例サマリー作成
 - ④指導医の指導
 - ⑤症例サマリーの登録
 - ⑥二次審査
 - ⑦修正
 - ⑧症例登録終了
- ⇒ 内科専門医受験資格

多治見市民病院の特徴

- ・総合診療として、高齢者医療ができるようになる。
- ・総合診療外来で、総合内科研修ができる。
- ・いろいろな技能が習得できる。
- ・内科全般にわたる症例が豊富である。
- ・内科総合カンファランスが週1回ある。
- ・Subspecialityのカンファランスもある。
- ・各Subspeciality専門医からの指導体制がある。
- ・経験症例、経験疾患群を考慮し自由なローテーションができる。
- ・ライフ・ワークバランスがよい。
- ・給与・社会保障が充実している。

内科専攻医の研修内容

- ・1年目から主治医 + 指導医で入院患者の受け持ち
- ・1年間で約200症例の入院患者の担当
- ・およそ1年半で、終了要件に到達可能
- ・症例サマリーの作成と指導医からのフィードバック
- ・二次救急外来、総合内科外来の担当
- ・Subspeciality専門研修も可能
- ・院外研修も調整可能

多治見市民病院内科専門研修プログラム 管理委員会（2025年11月現在）

- 今井 裕一 (プログラム統括責任者、委員長、多治見市民病院病院長)
- 福田 元敬 (副院長)
- 吉野 雅文 (内科統括部長、腎臓・リウマチ膠原病内科部長)
- 田邊 敦資 (消化器分野責任者、消化器内科部長)
- 伊藤 良隆 (循環器分野責任者、循環器内科部長)
- 河合 浩寿 (リウマチ・膠原病分野責任者、腎臓・リウマチ膠原病内科部長代行)
- 伊藤 竜男 (内分泌・糖尿病分野責任者、内分泌・糖尿病内科部長)
- 今村 一博 (脳神経内科分野責任者、脳神経内科部長)
- 児玉 貴光 (救急分野責任者、救急部部長)
- 池田 達也 (事務代表、事務長)
- 長谷川 多嘉根 (看護代表、看護部長)
- 青山 友子 (事務担当、総務部主任)

専攻医に合わせたプログラム内容
将来の目標に合わせ調整可能
自由な研修内容

多治見市民病院で
内科専門研修を希望する
医師を待っています。

連絡先：多治見市民病院 総務部 青山まで
Tel: 0572-22-5211
E-mail: t-aoyama@kouseikai-tajimi-shimin.jp